

2023年(令和5年)1月31日 火曜日

水道水から微量農薬

地下水研究会 予防原則で対策を

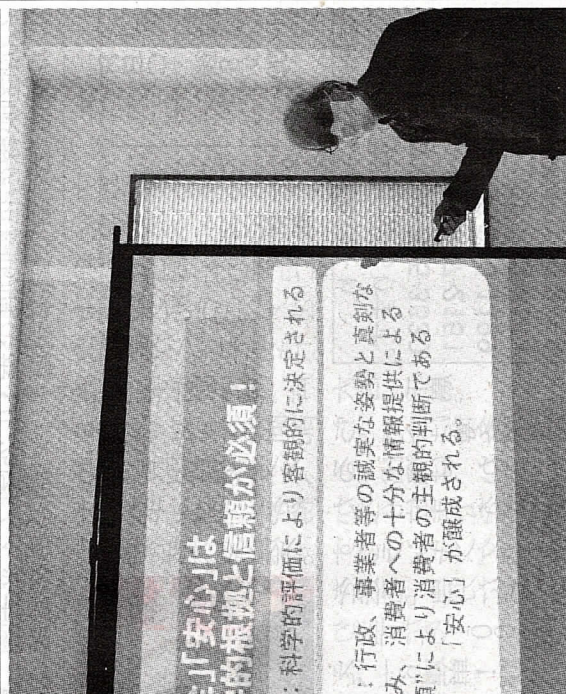
宮古島地下水研究会(友利直樹、前里和洋、新城竜一共同代表)は30日、県農業共済組合宮古支所会議室で記者会見を開き、市内2カ所の水道水で定期的に水質調査を行った結果、非常に微量ながら2種類の化学農薬成分を検出したことを発表。長期間の飲用による健康への影響が懸念されるとして予防原則の観点から対策が必要と主張した。

同研究会では昨年6月から11月まで袖山上水系と加治道浄水系の水道水2カ所で計6回の水質調査を実施。ネオニコチノイド系農薬のクロチアニシンが袖山で18〜34ナノグラム/リットル、加治道で16〜22ナノグラム/リットル、シメトランが袖山で15〜27ナノグラム/リットル、加治道で16〜22ナノグラム/リットル(ナノグラム/リットルは10億分の1グラム)がそれぞれ検出されたという。

友利共同代表は予防原則について「このデータで因果関係が直接証明されることはない。健康への影響がすぐに出るとは限らないが、可能性が少しでもあれば実際に影響が出る前に対策を練る必要がある」と述べ、農薬の使用量削減などを提

市水道部 影響及ぼす量ではない 安心して利用を

宮古島地下水研究会が実施した水質調査で水道水から微量の化学農薬成分が検出されたことについて、市水道部は「すぐに人体に影響を及ぼす量ではない。市民には安心して水道水を利用してほしい」と述べた。同部が昨年8月に実施した水質調査ではいずれも国の目標値を下回っている。調査結果は同部のホームページで公表している。



記者会見を行う宮古島地下水研究会の友利共同代表(左)と前里共同代表(右)が、水質調査の結果を説明している。背景には「安心」が醸成される。行政、事業者等の誠実な姿勢と真摯な取り組み、消費者への十分な情報提供による「安心」により消費者の主観的判断である「安心」が醸成される。